

「事故は管理側の責任でもある」

全流協が事故防止大会

西濃運輸、第一貨物が事例発表

特別積み合わせ運送事業者を中心組織する全物流ネットワーク協会（瀬戸薫会長）は12日、21日から始まる「秋の全国交通安全運動」の一環で、東京・四谷の東京都トラック総合会館で2013年度一事故防止大会を開いた。

大会では事故防止セミナーとして交通事故解析士の森澤三郎氏（審調社）が「IT時代の交通事故原因調査について」データなどの最新運行管理機器を有効に活用するには

——を講演。次いで、交通事故防止の取り組みの事例発表が行われた。冒頭、全流協・赤松毅

講演した森澤氏の審調社は、保険事故調査専門企業の大手。3D映像による事故デジタルシミュレーションからの安全対策などを話した。また、最新の運行管理機器との「上手な付き合い方」を



審調社・森澤氏



西濃運輸・中田氏



第一貨物・柴田氏

教示。最近の傾向として「最新機器の出現で事故回避努力を運転者だけに求める傾向が強まった」とした。「運転者が事故を起こすのは運転者だけの責任ではない。その環境を与えた管理側の責任でもあることを確認する」重要性を強調した。

事例発表での西濃運輸の中田昇執行役員輸送品質部長は、「公共の場を使って商売している我われは社会の責任として交通事故撲滅は使命」とした。同じく第一貨物の柴田章埼玉整備工場長は、「乗務員の階層別教育を充実させ、事故惹起者に対する個別指導・教育が必要」とした。2社ともに交通事故防止の積極的な姿勢が伝わり、参加者は真剣に聞いていた。